

峰山学園保幼小中一貫教育だより

ほっとニュース地域版 第4号【R3年7月号】

発行: 峰山学園事務局
連絡先: 0772-62-0359
FAX: 0772-62-7987
Mail: mineyama-jhs
@Kyoto-be.ne.jp

令和3年度の1学期が終わろうとしています。昨年に引き続き、コロナウイルス感染症予防のために緊急事態宣言が発令され、その後まん延防止措置に切り替えられましたが、小中学校、こども園では、感染症予防対策を講じながら教育活動、保育活動を行ってきました。子どもたちに必要な活動を「中止」するのではなく教育効果を考慮できうる限り「実施」できるようにと、各校・園が工夫を重ね行事や取組を進めました。Withコロナの時代とは言え、簡単な歩みではありませんでしたが、学校の1学期が大きな混乱なく地域・保護者の皆様のご支援・ご協力を頂きながら歩むことができました。ありがとうございました。引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

峰山小学校: 水泳学習



小学校では2年ぶりの水泳学習を行うことができました。間を十分とりながら学年に応じて学習を進めました。

いさなご小学校: 非行防止教室



夏休み前に学年毎に実施。善悪の判断をはじめ、万引きやいじめ、高学年は薬物乱用防止についても学びました。

しんざん小学校: ボランティア対面式



毎日の登下校の見守り活動をお世話になっているボランティアの皆さんとの対面式を実施。感謝の思いを伝えました。

長岡小学校: 自転車教室



京丹後警察、安全指導員さんにお世話になり、自転車教室を実施。5年生は「自転車免許」にも挑戦しました。

峰山こども園: カレークッキング



誕生会を祝うカレー作りのお手伝い。5歳児は包丁でジャガイモを切り、4歳児は野菜を指でちぎりました。経験が自信を生みます！

ゆうかり子ども園: 七夕誕生会



七夕にちなんだお話を聞き織姫と彦星が会えることを願いました。短冊に託したみんなの願いが叶うといいです。

峰山中学校: 和装体験



中学3年生が浴衣の着付けを学びました。色とりどりの浴衣が涼しさを運んでいました。帯結びまで自力でがんばりました。

峰山学園「みんなでおはよう運動」を実施



6月24日に町内の小・中学校PTAが一斉に挨拶運動に取り組みました。この日に合わせてPTAの交通立ち番を組み入れ、登校路の各場所でも子どもたちに「おはよう」の声掛けを行いました。元気な挨拶が行き交う町を目指しています。

こども園から小学校、小学校から中学校への接続 連絡会を実施



6月から7月にかけて、それぞれの小学校1年生の様子をこども園の先生が参観し、入学後の状況について交流を行いました。1年生はこども園の先生方に見てもらうことに喜びを感じながら学習している様子が見受けられました。

中学校でも同時期に1年生の様子を小学校の先生が参観しました。1年生は嬉しそうにしながらも照れ臭そうでした。子どもたちの成長を目の当たりにした先生方の表情は和らいでいました。校種が変わるといことは子どもたちにとって成長の節目、大きな階段を上ることであります。学園の段差解消に向けての大事な取組のひとつです。

第1回学校運営協議会が開催されました

延期されていた学校運営協議会が6月30日(水)にやっと開催できました。目まぐるしく変化する時代の中で「子ども達が自身の未来の扉を開くための力」を学校・家庭・地域が育てて行くことを目的としています。

協議会員は峰山町内の民生児童委員協議会の会長、区長会会長をはじめ、各校の保護者代表、見守り隊代表等、子どもたちに関係し支援をしていただける方々にお世話になっています。

峰山学園としての取組について学園代表の上田校長先生が説明し、その後、園長、校長先生方からは各園・校の要覧をもとに「学校で力を入れて取り組んでいること」を簡潔に報告して頂きました。今回は十分な時間はありませんでしたが、登下校の安全に関するご意見を頂きました。今後の検討課題の一つとしていきます。

協議会の皆さんには「保幼小中一貫教育」について知って頂くことが理解と支援に繋がる第1歩と捉え、今後ご協力頂きます。子どもたちの為に何が出来るか、協議を深めていきます。



地域への発信 「峰山町区長会」と「民生児童委員協議会」へ

峰山町区長会

民生児童委員協議会



変化が著しく、予測不能な事態や災害等も増えており、従来の「あたり前だったこと」が通用しない時代となりました。コロナ禍もその一つです。大変な時代だからこそ学校・家庭・地域が一体となり「地域総がかり」で子どもを育てる必要があります。幸いにも峰山町の地域の方々には温かく子どもたちを見守って頂いています。学校運営協議会が立ち上がっていることも踏まえ、区長会、民生児童委員協議会の場で時間を頂き、学園リーフレットを元に学園の取組についての理解と支援をお願いしてきました。地域の『子どもたちの応援団』を増やしていければと思います。